

シリーズ 社会福祉法人の力を地域に

～社会福祉法人の地域における公益的な取組を紹介～

社会福祉法が改正され、すべての社会福祉法人は、「地域における公益的な取組」を行うことが責務として規定されました。社会福祉法人の公益性・非営利性など、その本旨に従い、他の事業主体では困難な福祉ニーズへの対応が求められています。

「おかげさまの循環～畑づくりやギャラリーを通して～」

社会福祉法人つばき福祉会

取組みの背景

社会福祉法人つばき福祉会が運営するつばきこども園は昭和54年に開設され、当時、園に子どもを預けていた親が今では祖父母になり、乳幼児からお年寄りまで幅広い年代の地域ネットワークの拠点となっています。

ネットワークの拠点という強みを活かして、地域のさらなる活性化の一翼を担いたいという思いから、ギャラリーへの創作物提供に取組みだしました。また畑づくりも当初は園児の食育のために始めましたが、地域の活力の源になると考え、取組を拡充しました。



「次はスイカを作りたい」そんな園児の要望にも笑顔で応えてくれます

取組みの内容

園の開設当初から続けられている畑づくりは、園の近くの畑を借りて行っています。共同で畑づくりをしている地域の方からは、「畑づくりや収穫を通した園や園児との交流は、生活の楽しみであり、生きがいになっている」との声も聞かれます。秋祭りでは収穫した野菜で御神輿を装飾し、地域の方々と一緒に豊作祈願を行うこともあります。



ギャラリーで展示されている園児の塗り絵を取入れた作品

また、地域住民の創作物を展示する“太平寺ギャラリー”に園児の創作物を提供しています。ギャラリー運営をしている地域の方は「園児の創作物をきっかけに保護者やその家族、知り合い等、様々な人にギャラリーを知ってもらえ、助かっている」と嬉しそうに話されていました。園児の保護者の中には、ギャラリーに創作物を提供し始める方もいて、地域のつながりの輪が広がっています。

今後の取組み

近年は地域外から入園する園児も見られるようになりました。今の地域のネットワークを更に充実させながら、地域外の方とも新しいつながりを築き、つながりの輪を大きく・太くしていきたいと思えます。

これらの取組みは、地域を活性化するだけでなく、園児に地域の良さに触れてもらう機会でもあり、次世代と地域をつなぐ大切な役割も持っています。

今後つながりを大切に、おかげさまの循環する地域づくりの拠点として取り組んでいきたいです。



コロナ禍前は、畑で収穫した作物の調理と食事地域の方と園児とで行っていました

※掲載写真にはコロナ禍以前のものも含まれています

【問い合わせ】(社福) つばき福祉会 TEL 076-248-1155

◇◇◇地域における公益的な取組をシリーズで発信していきます。情報をお寄せください。◇◇◇